

# BRITISH AMBULANCE ROVER 7

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.82

TAMIYA  
静岡市恩田原3-7 〒422-8610



## イギリス 野戦救急車ローバー7

戦場において必然的に発生する傷病兵をより安全な後方に輸送し、必要な手当を施すために軍隊は非常に早い時期から自動車をその手段として採用してきました。第一次大戦で大量に使用されたT型フォードは特に有名ですが、機動戦となつた第二次大戦においては野戦救急車の行動半径はより大きくなり、この種の車輛の需要も増大しました。

イギリスの場合、第二次大戦においてはオースチンK2と呼ばれる3トン車が標準型野戦救急車として使用されています。この車輛はマン・イーガートンという会社が木製(部分的にファイバーを使用)ボディを設計し、民間型のオースチンK2のシャーシに架装したもので、同様のボディをベッドフォードMLにも架装して使用されています。両車は車内の両側に2段、計4名の負傷兵を担架ごと搭載できるように設計されていました。担架をおりたたんだ場合、両側に5名ずつ、計10名の兵士を腰かけた状態で収容することも可能でした。このほか戦争が長びくにつれてカナダ製のフォードやシボレーも大量に投入されますかいずれも3トンクラスの大型車で、大半が4×2、即ち後2輪駆動のみという、いわゆる民間型のシャーシを使用していました。

傷病兵の収容は通常、師団あるいは旅團に配属される医療(衛生)大隊が後方に仮設野戦病院を設け、前戦との中間地点に繩帯所と呼ばれる応急手当センターを仮設し、大隊に所属する病院車あるいは野戦救急車は前戦と繩帯所、傷病の程度によっては更に野戦病院まで患者を後送します。したがって前戦の戦

闘地域においては野戦救急車は路外走行性能を要求される場合が多かったのですが、前記の車輛はいずれも民間型からの改造であったため戦場においては道路上に駐車し、そこまで人力で患者を運搬しなければなりませんでした。ところがこうした要求にぴったりしていたのがアメリカ製のMBジープでした。標準型の救急車とちがってエアコンディションや暖房の設備もないし、スプリングはかたく、患者をのせるスペースも極めて限られていますが、思い切って小型であること、路外走行性能がすぐれていること等の理由から、応急に改造したいいろいろな形のMBジープ野戦救急車が使用されはじめました。前線の繩帯所から野戦病院までは従来どおり、3トンクラスの標準型病院車が使用され、戦争が長びくにつれ、これが一種の定型化されて大戦が終了したのです。このような戦訓にもとづいて第二次大戦後は各国ともジープクラクの小型野戦救急車を常装備とし、収容力のやや優る大型の車輛と併行して使用しています。今日ではこの種の車輛のほかに緊急を要する患者に対してはヘリコプターが併用され、衛生大隊の機動力は格段に向上了いますが、前線は4輪駆動車、後方は民間型あるいは4×2型の病院車という区分は変わっていません。

戦後、イギリス及び軍事上の必要物資を伝統的にイギリスに依存している多くの国々の軍隊は小型四輪駆動車ランドローバーを制式兵器として採用し、今日に至っていますが、当然この中に野戦救急車も含まれています。

第二次大戦中のMB改造型を含む各種の野

戦救急車の耐用年限が終了し始めた1950年代、イギリスはランドローバーを本格的に野戦救急車として制式化する準備をすすめて、はじめに107インチホイルベース、1977cc、 $\frac{1}{2}$ トンMK4のシャシーを利用して空軍の山岳救難部隊用の野戦救急車の設計に着手しました。ボディの設計・生産に当ったのはボナラック&サンズ社で、ボディの各パネルはアルミニウムと軽量断熱材を使用し、車体内部は2名の患者を担架のまま収容、1名担架のまま3名横に並んで座る、両側に6名並んで座る——という3通りの収容方法が選べるようになっています。いずれの場合もこの他に運転席に運転手と軍医各1名、後部に看護兵1名が乗車できるので合計5~9名、 $\frac{1}{2}$ トン車としてはやや積載オーバーといえる強引な設計ですが、1954年に制式化されFV-18005 トラック $\frac{1}{2}$ トン、4×4アンビュランス・スペシャル・ローバーMK4(ローバー



ランドローバー

シリーズI "107")と呼ばれています。

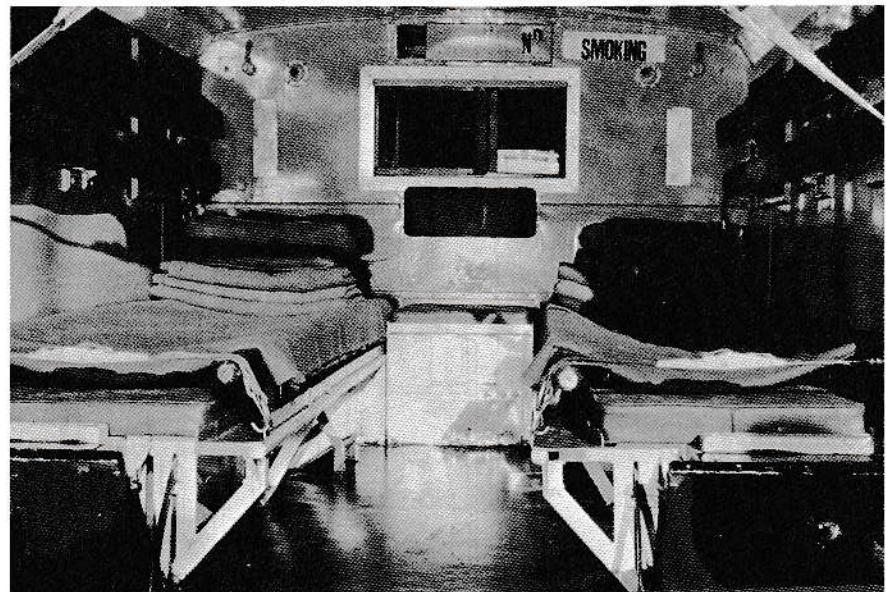
空軍についてイギリス陸軍もややおくれてこのランドローバー野戦救急車の制式化に

ふみ切り、上記の空軍の車輌と殆ど同じ仕様の設計で1961~62年にミクロー・パートンスポート社に車体の生産、架装を発注しました。但し、今度は2286ccの強力型エンジンを備えたランドローバーシリーズII A、 $\frac{3}{4}$ トン車をベースに使用しているので収容人員は同じでも馬力の余裕が大きく、行動力も優れています。この車は「 $\frac{3}{4}$ トン 4×4、2ストレッチャー・アンビュランス、ローバー9、シリーズII A “109” (FV-18044)」として知られており、空軍山岳救難部隊ものちにこの車輌に切りかえゆきました。（空軍が使用している飛行場救急車は前部に特別なガードをつけていてFV-18047と呼ばれており、このキットから簡単に改造することができます。）

これらのランドローバー野戦救急車はいずれも民間型のランドローバーを軍用型に改装したもので、主な変更点としてはWD (War Department・軍需省) の制式タイヤとホイールの採用、サスペンションの強化、エンジンファンの大型化、軍の規格に適合するライト類の採用その他があげられます。大型のボディには完全な換気装置と暖房装置を備えており、ぜい沢な車輌となっています。

60年代に入ってランドローバーは更に多くの改良が施され、これに従ってアンビュランスも少しずつ変更されてきています。60年代末にマーシャルオブケンブリッジ社とミクローバー社が陸軍に納入した「 $\frac{3}{4}$ トン 4×4 アンビュランス、 $\frac{3}{4}$ ストレッチャー、ローバー9、(FV-18067)」は車内両側面に上・下2段で合計4台の担架を収容、屋根の上に更に特別な担架を取付けられる装置を備えた仕様の車輌で、このクラスの車輌としては最大の患者収容能力をもつ車となっています。

なお野戦救急車、病院車はジュネーブ条約によって赤十字のマークをつけ、負傷者の収容だけを専一とし、戦闘行動に使用しないこと、敵側もこのマークをつけた車輌は攻撃しないことが規定されていますが、戦時にあっては必ずしもこのとりきめが守られていないことが両大戦の経験から明らかであり一見矛盾するカモフラージュと鮮やかな白地に赤の十字マークがつけられています。



《人形とアクセサリーの配置》



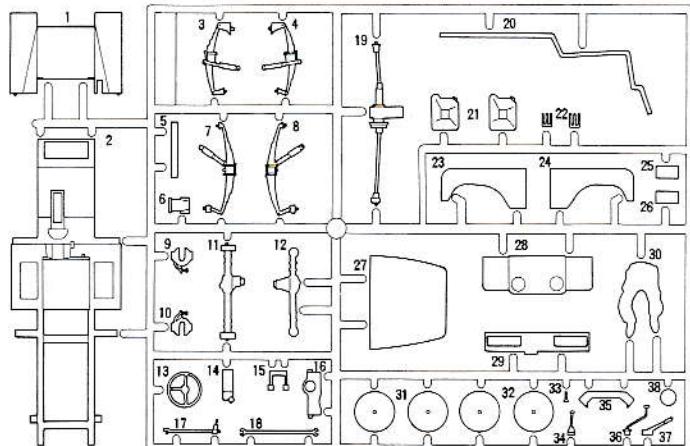
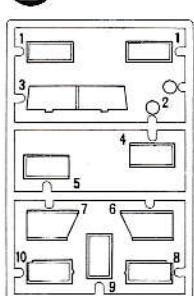
# PARTS

## A 部品

1. フロントフェンダー
2. フレーム
3. リーフスプリング前左
4. リーフスプリング前右
5. スキッドガード
6. トランスマッisionケース
7. リーフスプリング後右
8. リーフスプリング後左
9. ユニバーサルジョイントカバー左
10. ユニバーサルジョイントカバー右
11. リヤアクスル
12. フロントアクスル
13. ステアリングホイル
14. ステアリングギヤボックス
15. ベダル
16. クロスメンバー
17. ステアリングシャフト
18. タイヤロッド
19. トランスマッisionドライブトレイン
20. エキゾーストパイプ
21. ジェリカンA
22. ジェリカンB
23. フロントフェンダー左
24. フロントフェンダー右
25. マフラーA
26. マフラーB
27. ボンネット
28. ラジエターグリル
29. インストルメントパネル
30. ドライバー下半身
31. リヤドラム
32. フロントドラム
33. 4WDコントロールレバー
34. トランスマッisionレバー
35. クラッチアンダーガード
36. シフトレバー
37. ハンドブレーキレバー
38. ブリッジクラスサインプレート

## A 部品

## D 部品



## B 部品

1. ボディ右
2. ボディ左
3. 無十字サイン
4. スペアタイヤホルダー
5. リヤステップ
6. パックレスト
7. サイドミラー右
8. サイドミラー左
9. タンカ
10. フロアパネル
11. ドライバー上半身
12. ドライバー右手
13. ドライバー左手
14. シートスター
15. ルーフ

## C 部品

1. スペアタイヤ
2. タイヤ
3. 水筒
4. バックレスト
5. フロントバンパー
6. テールゲート右
7. テールゲート左
8. リヤバンパー
9. ドアハンドル
10. ベンチシート
11. ベンチシート
12. 消火器
13. ワインドウ
14. 毛布
15. ウィンドウ
16. スカットル
17. ドライバーズシート
18. パッセンジャーシート
19. バルクヘッド
20. タイヤ内側

## D 部品

1. テールゲートガラス
2. ヘッドライトレンズ
3. フロントウインドウ
4. バンサイドガラス左A
5. バンサイドガラス右A
6. サイドウインドウ右
7. サイドウインドウ左
8. バンサイドガラス左B
9. バンサイドガラス右B
10. バンサイドガラス右B

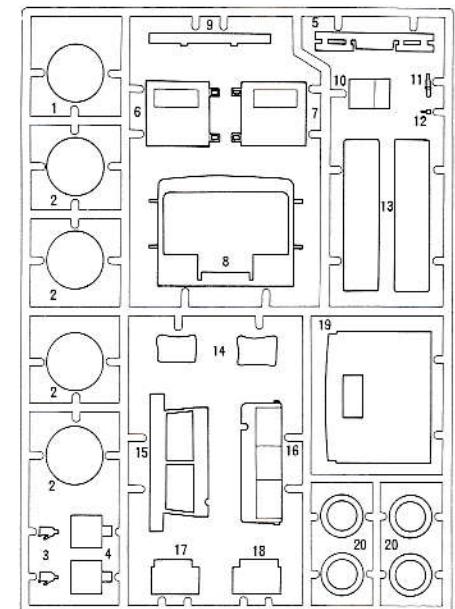
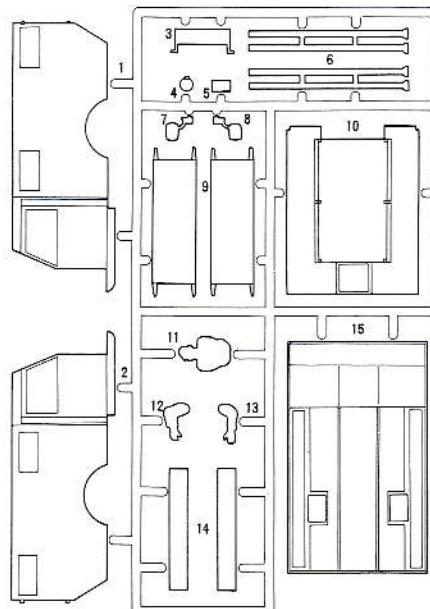


★お買い求めの際、または組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

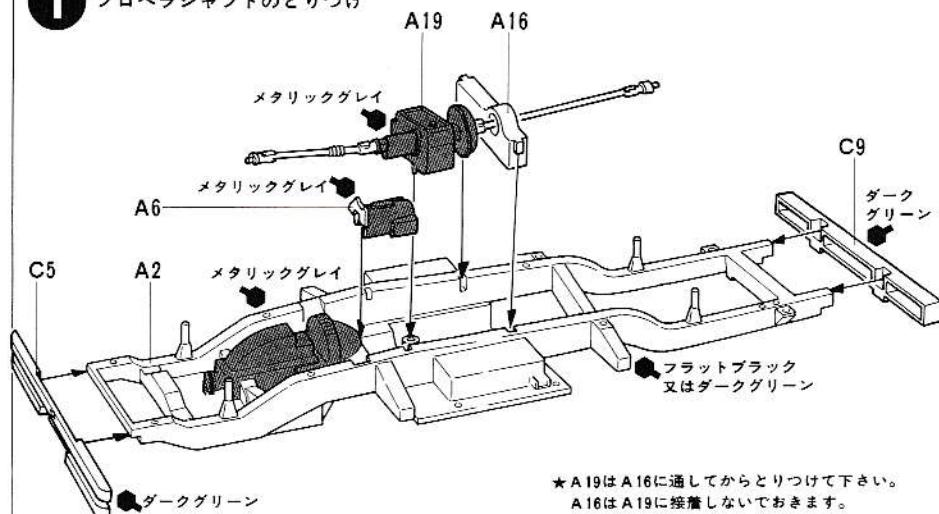
★タミヤからはピン入りの接着剤タミヤセメントが別売されております。モデルをきれいに仕上げるタミヤセメントをお使い下さい。

## B 部品

## C 部品



## 1 プロペラシャフトのとりつけ



## ② 《フロントアクセルとマフラーのくみたて》

フロントアクセルは各部品を接着しないで組立てます。図をよく見て矢印にしたがって組み立てて下さい。



## ③ 《アクセルのとりつけ》

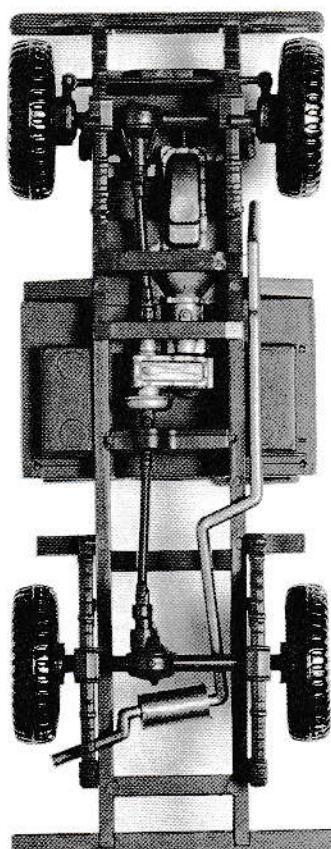
フロントアクセルとリヤアクセル A11 はマフラーをとりつけたのちシャーシ A2 よりでている索内ピンにとりつけて下さい。

## ④ 《タイヤのくみたて》

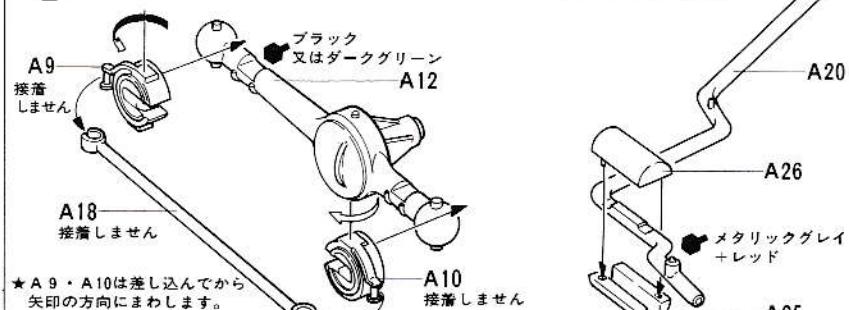
フロントタイヤにはさみこむ A32 リヤタイヤにはさみこむ A31 は接着しません。A32・A31が回転するよう注意して組立てて下さい。

## ⑤ 《タイヤのとりつけ》

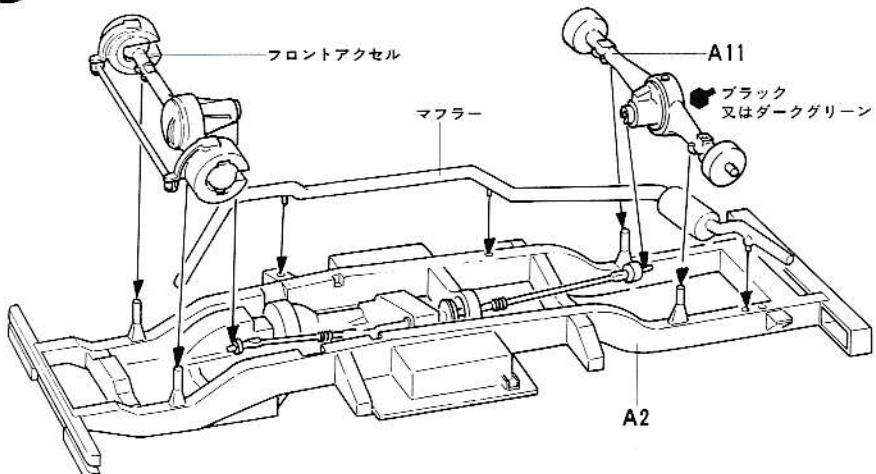
各タイヤは回転します。ホイルとアクセルに指示した接着部分により接着剤をつけて下さい。



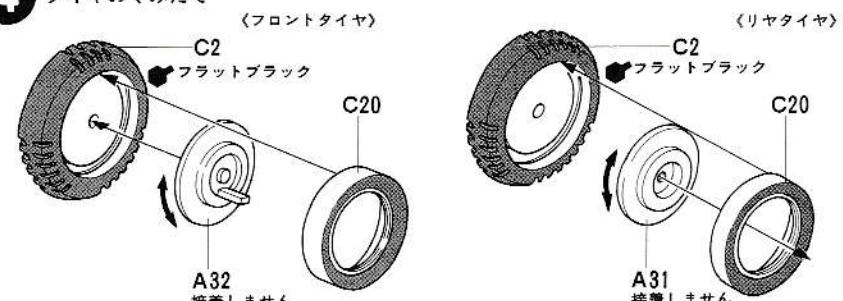
## ② フロントアクセルとマフラーのくみたて



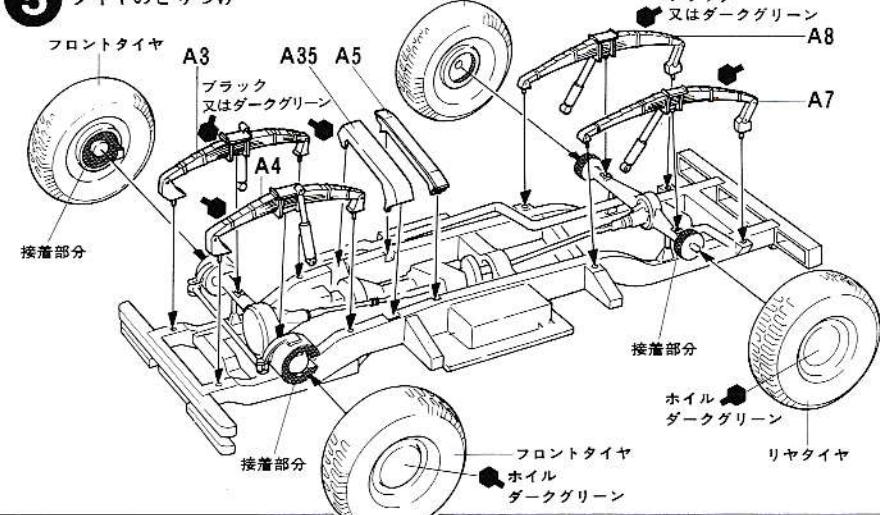
## ③ アクセルのとりつけ



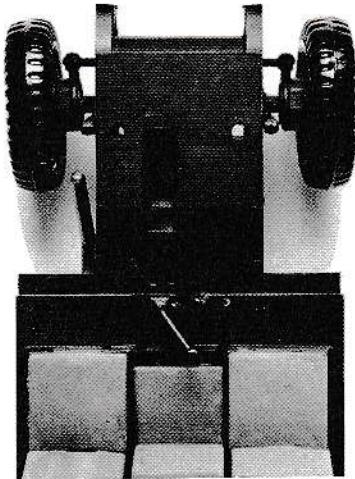
## ④ タイヤのくみたて



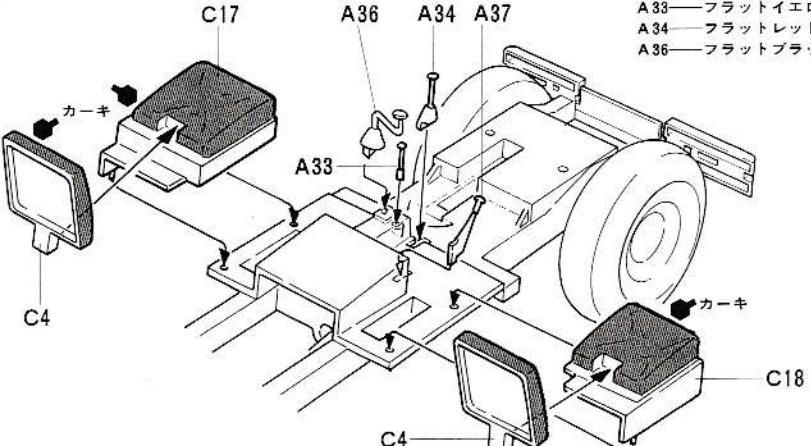
## ⑤ タイヤのとりつけ



**6** 《運転席のくみたて》  
各レバーは下の写真を参考にとりつけて下さい。

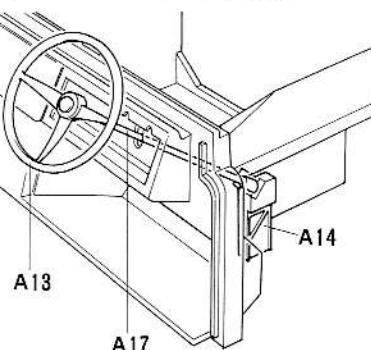


**6 運転席のくみたて**

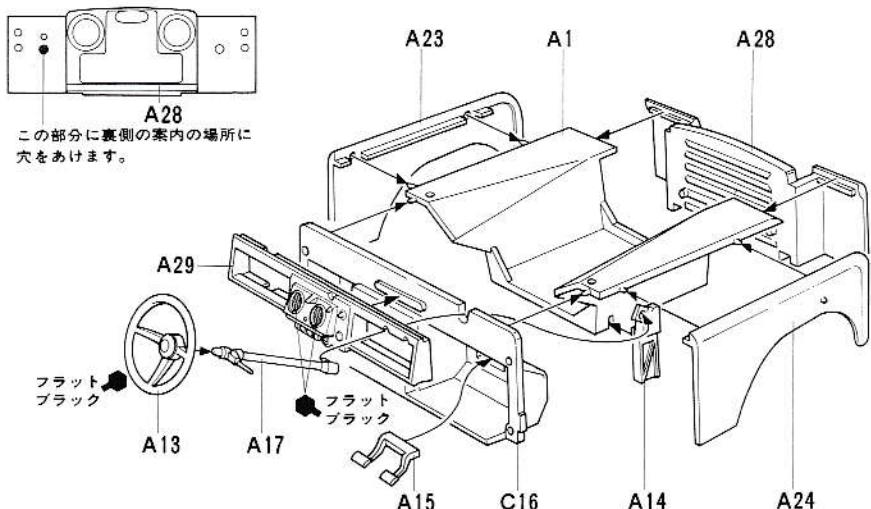


**7** 《ボディ前部のくみたて》  
A28をとりつける前に右の図の位置に裏側より穴をあけておきます。  
ステアリングシャフトA17はB31のみを通じてステアリングギヤーケースA14にとりつけます。

《ステアリングシャフト取付図》

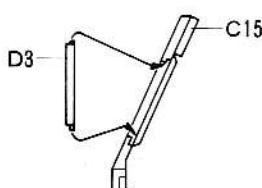


**7 ボディ前部のくみたて**



**8** 《ボディ前部のとりつけ》  
ボディ前部をシャーシーにとりつけてから各パーツをとりつけます。番号をとりつける位置を確かめてとりつけて下さい。フロントウィンドウは下図を参考にとりつけて下さい。

《フロントウィンドウのとりつけ》



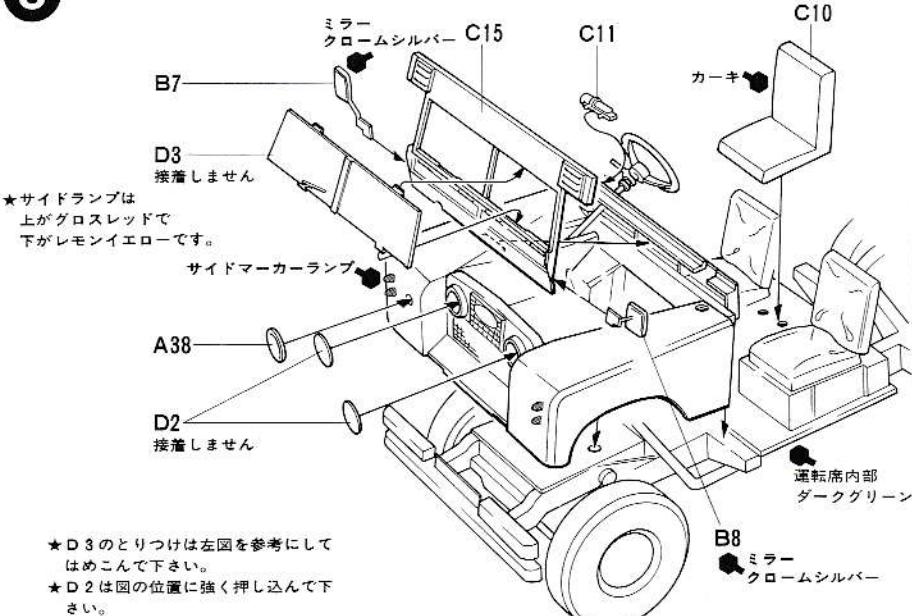
★下側を先にはめ、上側は強く押し込んで下さい。

**TAMIYA COLOR**  
タミヤカラー(エナメル塗料)



筆塗り塗装にぴったり。のびが良く筆ムラ、泡立ちもほとんどなし。つやの良さもエナメル塗料ならでは。もちろんスプレー塗装もOK。

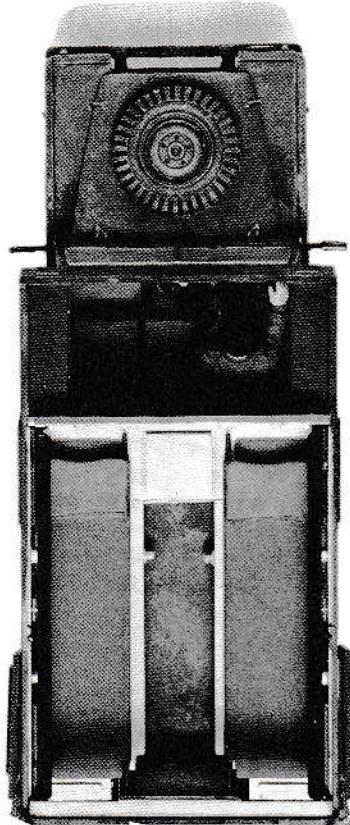
**8 ボディ前部のとりつけ**



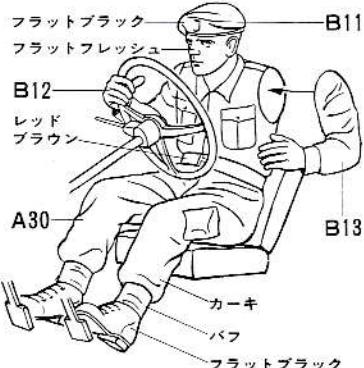
**9** 《サイドパネルのくみたて》  
ウインドウガラス、D4・D5D  
8・D10は青色の着色ガラスです。裏側から青いマジックインキ等で塗っておきます。ウインドウガラスは全体の塗装後にとりつけるか、マスキングをして全体の塗装をして下さい。

**10** 《フロアパネルのくみたて》  
ウインドウガラスD9は青色の着色ガラスです。裏側から青いマジックインキ等で塗っておきます。

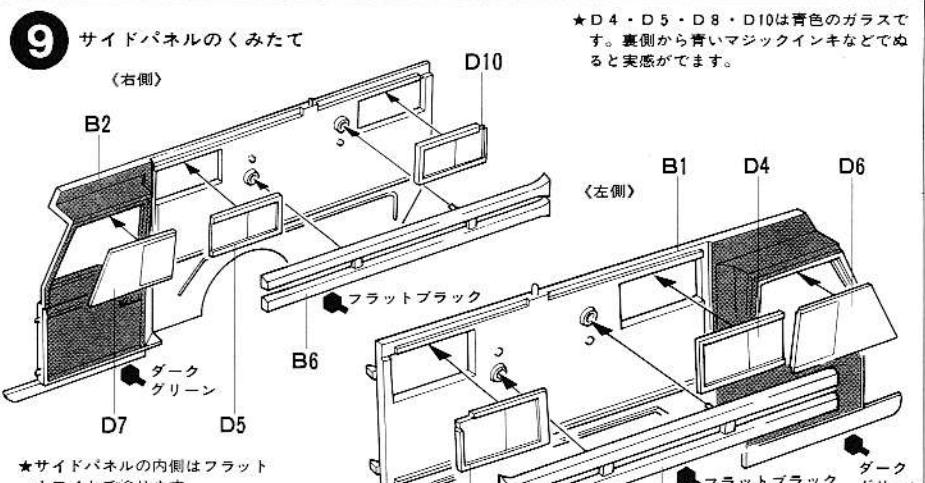
**11** 《バンのくみたて》  
タンカB9と毛布C14は接着しないでおき、情景のアクセサリーとしても使うことができます。



《ドライバーのくみたてと塗装》

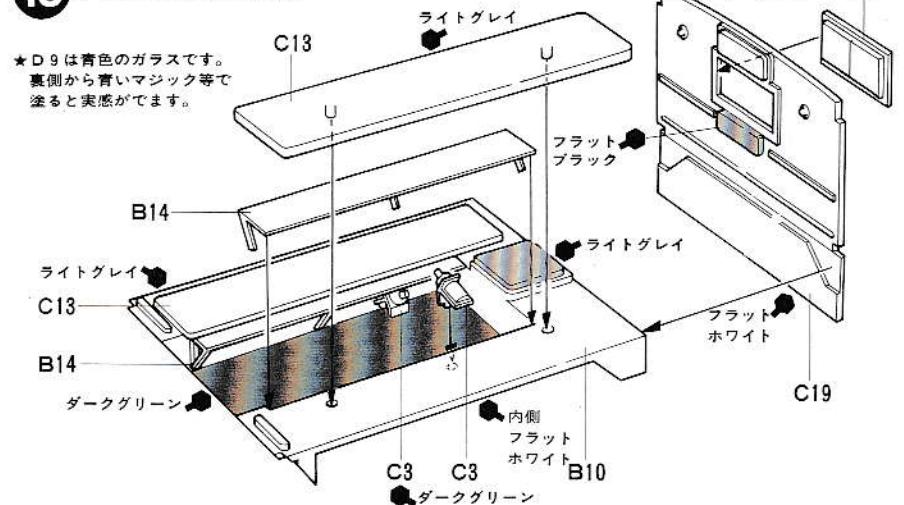


★人形は塗装してからとりつけます。

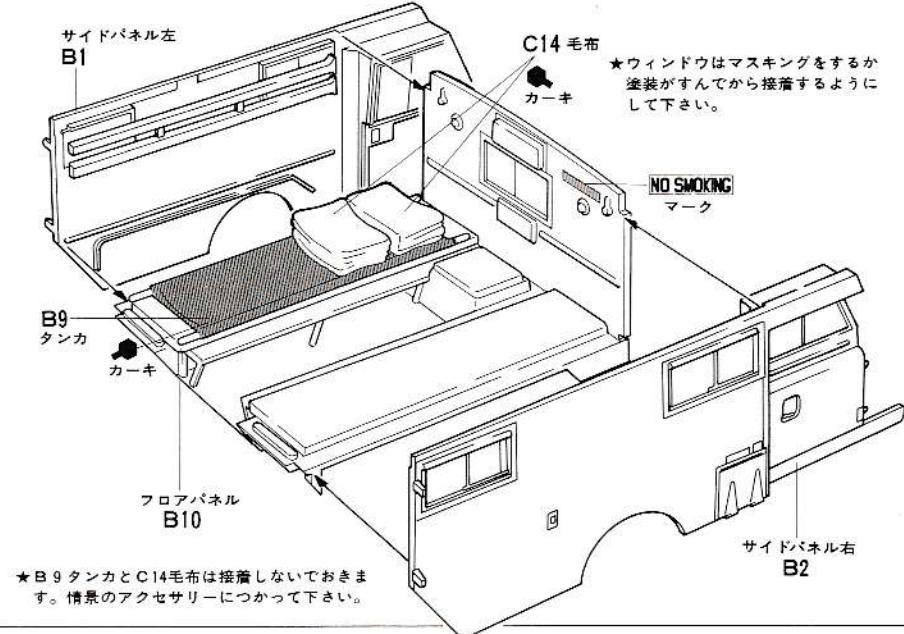


**10** フロアパネルのくみたて

★D9は青色のガラスです。  
裏側から青いマジック等で塗ると実感ができます。



**11** バンのくみたて

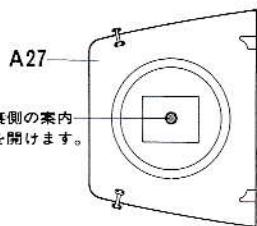


★B9タンカとC14毛布は接着しないでおきま  
す。情景のアクセサリーにつかって下さい。

**12** 《テールゲートのとりつけ》  
テールゲート C 6・C 7 は開閉できます。接着しないでパンと C 8 でおさえます。又 D 3 も可動です。

**13** 《パンのとりつけ》  
ポンネット A27 は下図に指示した位置に裏側から穴を開けておきます。

《A27の工作》

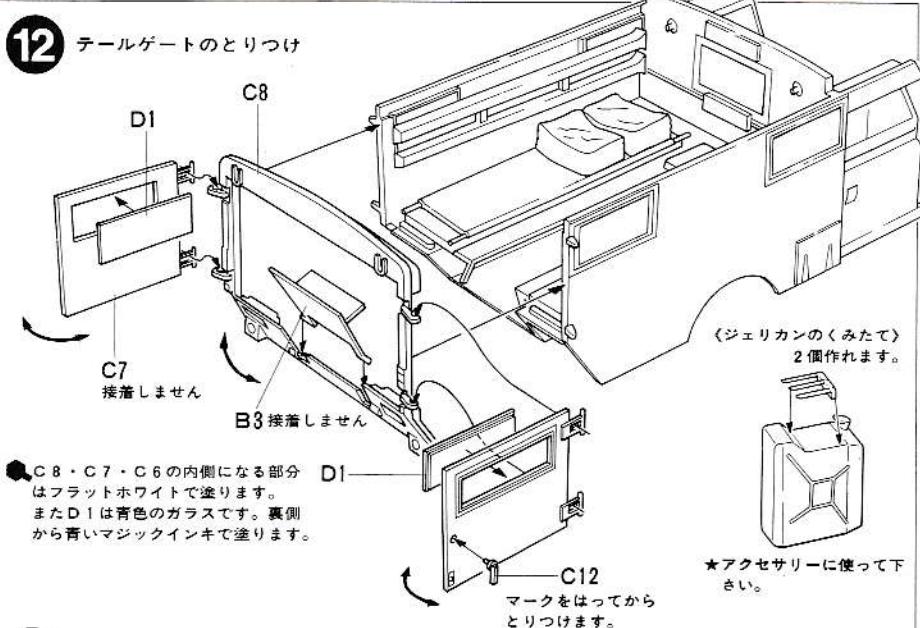


この部分に裏側の案内  
の場所に穴を開けます。

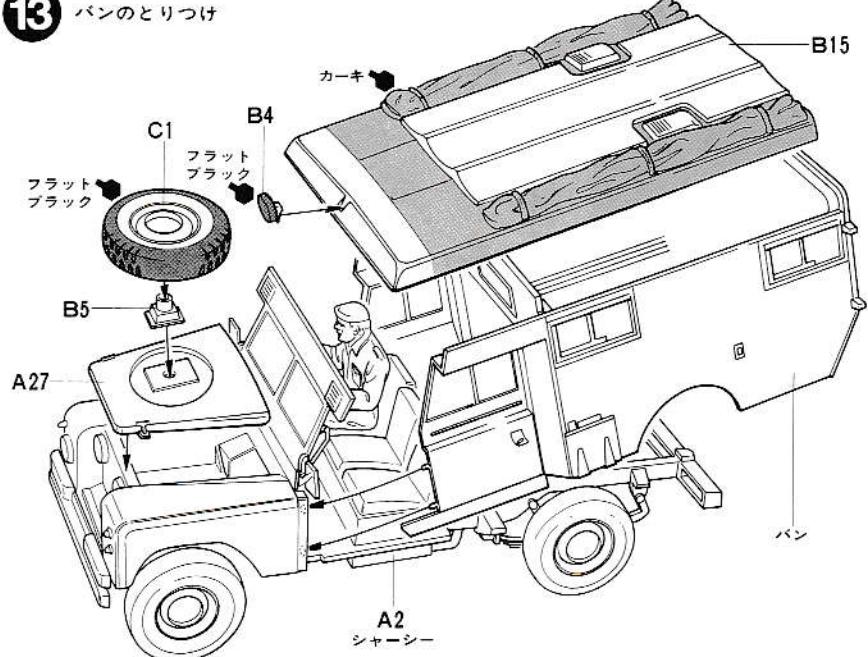


**14** 《人形のくみたてと塗装》

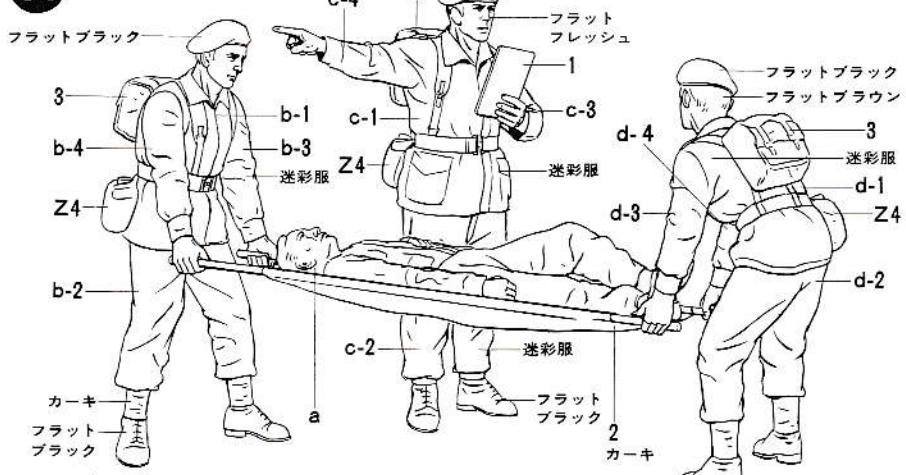
迷彩服の模様



**13** パンのとりつけ



**14** 《人形のくみたてと塗装》



# PAINTING



# APPLYING DECALS

## 《野戦救急車の塗装》

イギリス野戦救急車ローバー7は全面吹付けのダークグリーンで塗られ、イギリス軍の軍用車輌の代表的な迷彩であるフラットブラックのミッキーマウスパターンが描かれています。この迷彩はイギリス軍独特のもので、迷彩の境界線がはっきりした各迷彩の面積の大きなものです。

★各部の塗装は組立図中に指示しています。

## 《使用する塗料》

★右図を参考にして迷彩して下さい。

★各部の塗装はタミヤカラーで指示しています。色の正確なタミヤカラーをご使用下さい。

フラットブラック	X F - 1
メタリックグレイ	X F - 56
バフ	X F - 57
ダークグリーン	X F - 61
レッドブラウン	X F - 64
ブラック	X - 1
レッド	X - 7
レモンイエロー	X - 8
クロームシルバー	X - 11
カーキ	X - 49

## 《野戦救急車のマーク》

★右図を参考に各マークをはって下さい。マークの貼り方はマークの台紙裏面に記してあります。マークのニス部を切りとりきちんと貼って下さい。

万一不良部品、不足部品などありました場合には、当社アフターサービス係までご連絡下さい。

☎ 静岡 054-283-0003

☎ 東京 03-3899-3765(静岡へ自動転送)

営業時間/平日(月～金曜日)8:00～17:00 祝日▶休み

## TAMIYA COLOR



タミヤカラー(アクリル塗料)

ぬりやすいアクリル樹脂の塗料です。筆は水洗いもできます。筆塗り、スプレーで美しい仕上がりが楽しめます。NET23cc

## TAMIYA COLOUR



タミヤカラー(スプレー式)

美しい塗装が手軽に楽しめるスプレー式の塗料です。ミリタリーモデル用、カーモデル用、一般工作用がそろっています。全24色。

## TAMIYA CEMENT 40ml



タミヤセメント(ピン入り)

プラスチックモデル用液体接着剤。安定性のいい使い易い四角いピン入り、容量もお徳用です。

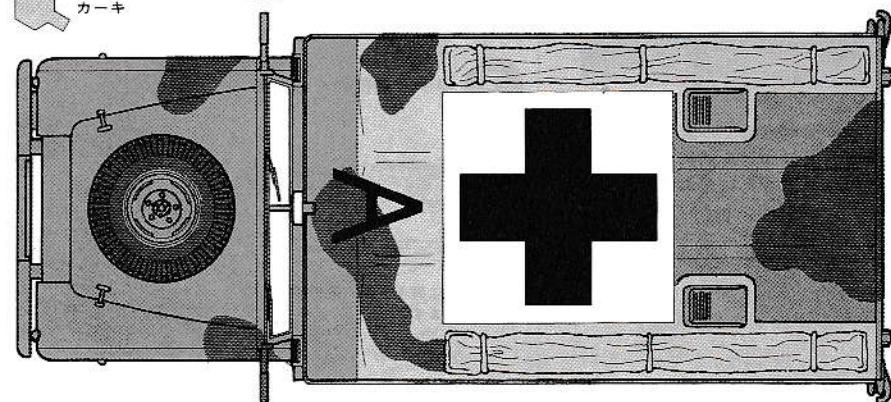
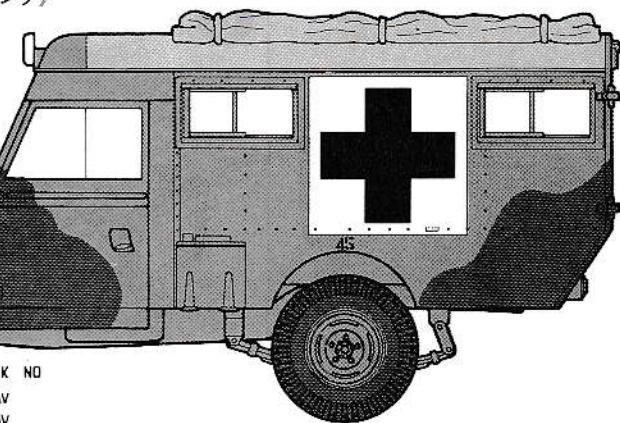
## 《野戦救急車の塗装とマーキング》

ダークグリーン

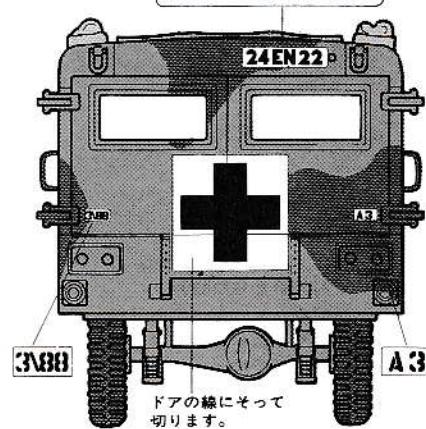
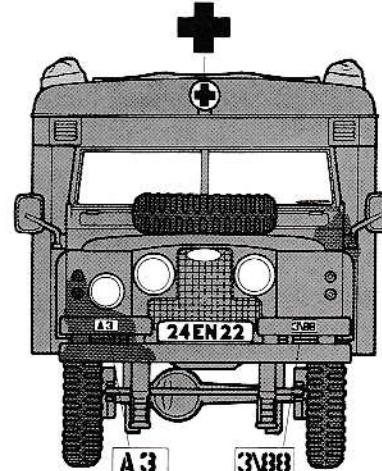
フラットブラック

カーキ

CHALK NO  
20



24EN22



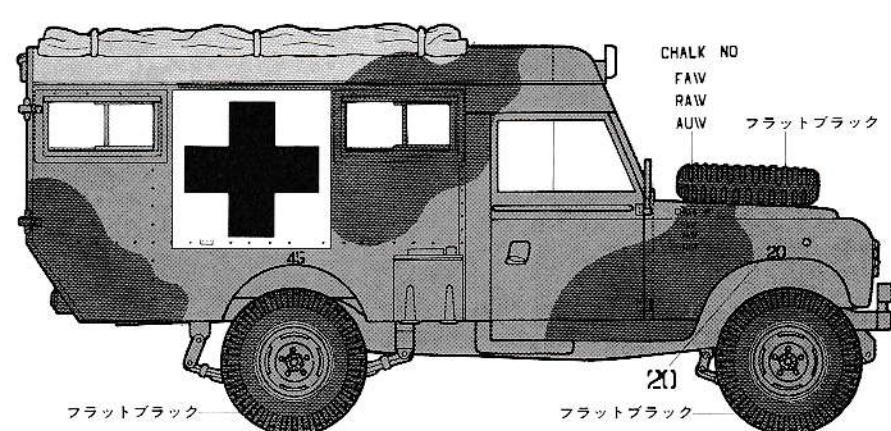
CHALK NO

FAW

RAW

AUV

フラットブラック



フラットブラック

フラットブラック